

日本リスク学会年次大会で企画セッションを開催し、講演しました（2025/11/9）

テーマ：被災地での社会調査、研究倫理、東日本大震災、令和6年能登半島地震、リスク学、防災実践

URL : <https://www.sra-japan.jp/SRAJ2025-Web/> (第38回日本リスク学会年次大会)
<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S2212420925001839?via%3Dhub> (論文)
<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2025/03/press20250325-03-disaster.html>
(プレスリリース)

2025年11月8~9日、第38回日本リスク学会年次大会が大阪大学吹田キャンパス・コンベンションセンターで開催されました。大会2日目に企画セッション「調査公害について考える2」が企画され、原裕太助教（2030国際防災アジェンダ推進オフィス）が講演・登壇しました。当該講演の内容は2025年3月に発表し、本学と金沢大学よりプレスリリースを行った学術論文の成果に基づきます。

大規模な災害などの深刻な出来事が発生すると、その発生地・被災地では、社会調査の増加や調査の項目の過多および複雑化により、調査対象者に大きな肉体的・精神的な負担がかかる研究倫理上の深刻な問題が度々生じます。当該企画セッションは、前年の第37回年次大会で開催された企画セッション「調査公害について考える」に続いて開かれ、令和6年能登半島地震の被災地の現状にも広げて議論を深めました。

当年次大会の実行委員を務める村上道夫教授（大阪大学感染症総合教育研究拠点）、小林智之准教授（関西学院大学社会学部）がオーガナイザーを務め、清水右郷講師（宮崎大学医学部）がコメンテーターを務めました。また、看護学、放射線健康管理学、地理学、農学を専門とし、国内外で被災地での社会調査が抱える倫理的課題に警鐘を鳴らしてきた下記の研究者がそれぞれの立場、視点から話題提供を行いました。

各講演と議論の概要是後日、日本リスク学会の機関誌『リスク学研究』に掲載され、Webサイト（J-Stage）でも公開される予定です。

企画セッションのプログラム概要

趣旨説明	村上道夫（大阪大学感染症総合教育研究拠点） 小林智之（関西学院大学社会学部）
講演1 健康と災害に関する研究倫理—3.11福島原発事故以降の調査研究から—	本田香織（東北大学医学系研究科）
講演2 能登半島地震における高齢者施設調査と「調査公害」への配慮	山本知佳・趙天辰・坪倉正治（福島県立医科大学医学部）
講演3 「合成の誤謬」が引き起こす調査公害のリスクと軽減策の検討	原裕太（東北大学災害科学国際研究所）
講演4 復旧・復興過程で必要な調査をすべき「真の主体」は誰かという問題	山下良平（石川県立大学生物資源環境学部）
全体討論	コメンテーター： 清水右郷（宮崎大学医学部）